

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【学校の現状】**

学校全体が落ち着いた雰囲気の中で、教育活動が展開されている。児童は明るく素直で地域や、PTA・保護者も大変協力的である。健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対しては、管理職の指導のもと全職員が共通理解を図り、SCや関係機関とも連携しながら一人一人に対し、丁寧に対応している。学校に対する保護者の期待は大きく、PTAや地域も協力的である。教職員は学校全体を視野に入れ、全校児童へ積極的に関わり、粘り強く教育活動を進める中で、不登校児童を含め年間の欠席児童数を2年連続で減少させることができた。区小研や連携中学校をはじめ、校内外の様々な研修会を通して、若手教員、ベテラン教員がともに授業力・指導力を高め合う中で、組織的に課題解決に取り組むとする意識がより高まってきた。

【前年度の成果と課題】

1 知・徳・体の調和のとれた児童の育成

国語75.5%、算数73.4%、全体74.5%の通過率で、区内小学校間の順位は10位上昇したが、数値自体は昨年度に比べ、1.5、3.8、2.6ポイント低下した。昨年度より全校体制で進めている読解力を中心に国語力を高める指導については一定の成果がみられるが、さらにS-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。すべての児童の言語能力向上を目標に、授業以外でも日常的な読書活動や群読などの取組を行い、児童の「話す」「聞く」力の育成を図った。また、校内授業研究会では、足立スタンダードの内容の徹底を目指し、特に児童によくわかる板書やノート指導について、管理職や区教科指導専門員による週一回以上の授業観察、OJTを通し確実に身に付けさせ、授業で活用できるようにした。日常の授業でつまづきがちな3、4生の児童を対象に区そだち指導員による個別指導を実施し、各児童の学習意欲を高めることができた。

2 若手教員の育成

管理職・ベテラン教員に加え、区教科指導専門員の指導も仰ぎ、特に国語の言語事項についての指導力を高めることを念頭に置き、若手教員の育成を図っている。足立スタンダードの内容を正しく把握し、児童の学力向上に直結する授業力(板書、ノート指導)を確実に身に付けさせていく。

3 開かれた学校づくり

出張授業や外部人材の活用は1～3年15回、4年6回、5年8回、6年10回実施した。1・2年は放課後子ども教室指導者、保護者を中心に、3年以上は地域を含む民間や外部の人材を活用した授業や行事を意図的・計画的に実施した。各学年ともキャリア教育の視点を根底に据え指導に取り組んできた。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組の概要**重点的な取組事項－1 学力向上**

- 文章を書く力、文章を読み取る力、計算力、文章問題を解く力の育成
 - ・朝、昼学習、授業、放課後教室、サマースクール等の効果的な運用
- 教師の授業改善、授業力の向上
 - ・足立スタンダードに示された板書や授業の流れ、ノート指導の徹底を図り、管理職、学力向上担当、学年主任等による授業観察に加え、区教科指導専門員による定期的授業観察、研究授業、若手教員による授業研究(一人年間20回)を通して一人一人の教員の授業力を向上させる。
- 言語能力向上を中心とした学力向上への取組
 - ・国語科の学習以外でも児童自らがより主体的に言語活動を行う機会を設定し、特に文章の読解力の向上を図る。

重点的な取組事項－2 小中連携

- 伝え合う力、コミュニケーション能力の向上を目指し、道徳を含め全教科の研究授業を公開する。連携校だけでなく、幼保にも参観を呼びかけ成果を発信していく。
- 各教科主任による模範授業と若手教員授業を公開、校務支援システムを活用し、事前に指導案を配信・検討・参観・協議を行う。
- 小中連携校の公開研究授業・協議会に全教員が参加、連携の成果と課題を共有化、自校での取組の見直しと推進を図る。
 - ・連携校教員間の交流の充実を目指し、連携中学校との授業研究会・協議会を3回ずつ両校で実施。

重点的な取組事項－3 体力向上

- 体育科の授業を全学級で公開し、児童がより積極的に楽しく学べる体育授業を実現する。
- 体育行事の工夫と日常的な運動朝会等を通して児童一人一人が運動に親しめる機会を増やす。

○体育の記録カードや体力カード等を活用し、児童一人一人が自らの達成度や体力の状況を知るとともに、自ら積極的に体力向上に取り組むようにさせる。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 学力向上

○国語 75.5%、算数 73.4%、全体 74.5%の通過率で、区内小学校間の順位は10位上昇したが、数値自体は、昨年度に比べ、1.5、3.8、2.8ポイント低下した。区学力調査の結果をもとにしたS-P表の分析や、単元テストの結果を学力ポートフォリオにまとめ各学級や児童一人一人のつまずきや課題を明らかにし、通常の授業や朝学習に加え、放課後個別指導を2月末までに80回以上実施し、基礎学力の定着に務めた。次年度は指導時間をしっかりと確保するとともに、課題のある児童に対し、児童の実態に応じた指導を工夫し確実な学力向上を図っていく。

○経験6年以下の若手教員6名については、足立スタンダードに基づく指導展開や授業方法を確実に身に付けさせるべく管理職や区教科指導専門員による授業観察や若手教員研修会等を通して繰り返し指導した。中堅・ベテラン教員も積極的に授業観察に参加するなど指導をしっかりと行っている。また、経験7年以上の教員全員も、教育実習生への公開授業、校内研究公開授業等で指導案を作成して一人3回以上模範授業を公開するとともに、区教科指導専門員の授業観察をもとにした協議会を週一回実施した。次年度も公開授業を通しての授業力向上という視点を基本に教員の育成を図っていく。

○校内授業研究として、国語科の授業を通して児童相互の読解力や表現力を高める指導法について研究を行った。次年度はその上に立ち、さらなる児童の言語活動の活性化と読解力の向上を目指し、国語科の授業改善を中心に研究を進めていく。

重点的な取組事項－２ 小中連携

○小中連携校の学習指導案検討会、公開研究会・協議会に全教員が参加し、実際の授業研究を通して連携の成果と課題を共有化することができた。連携中学校の学校公開や行事に教員が参加し、具体的な取組についてさらに理解を深めた。本校の公開授業においても全学級で各教科の授業を実施し、言語活動を中心に児童生徒の学力向上について意見交換を行い、相互理解を深めることができた。

重点的な取組事項－３ 体力向上

教材・教具、指導法を工夫しながら運動量を落とさない授業を進めることができた。都運動能力調査では、全学年で都の平均値をやや上回るという結果が出た。全学年において投力や握力の向上が必要という結果が出たので、次年度は器械運動やボール運動の指導を工夫しながら、向上を図っていく。

○年間を通した体力向上の取組をすべて計画通り実施した。児童が進んで運動に取り組めるような学習内容については、今後も職員全員で研究していく必要がある。

○行事や運動月間ごとの学校記録の更新や個人の体力カードの活用を通して、児童一人一人がめあてをもって運動に取り組もうとする意欲を高めることができた。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○今年度も放課後教室を30分間、毎週1回実施した。学習内容の定着が十分でない児童に対して基礎的・基本的な内容を個別に補習をした。朝学習では主に音読、昼学習では漢字、計算問題の定着度の確認を行った。次年度は、区学力調査の分析資料、児童一人一人の学習記録(学力ポートフォリオ)をもとに、つまずきの解消に向けて指導の徹底を図っていく。家庭学習の定着にも力を入れていくので、各家庭のご協力をお願いしたい。

○学校図書館ボランティアによる毎月の本の紹介や休み時間のお話会、図書室の環境整備等を例年と同じように実施していただいたことにより、児童の本に親しむ機会がより一層増えた。年間読書目標を全員が達成することを目指して各学級で取り組んできた。今後もPTAや図書ボランティアと連携して読書活動の充実を図り、豊かな心や読解力を高めていきたい。

○毎月の生活振り返り週間、早寝・早起き・朝ごはんキャンペーン、毎月の人権指導など、児童の基本的な生活習慣の確立や思いやりの心を育てるための取組を行ってきた。今後もPTA・開かれた学校づくり協議会、関係諸機関の協力を得ながら、全教育活動を通して豊かな人間性を育てる指導を継続していく。また、縦割り班活動や子どもまつり等の異学年交流の内容をより充実させ、教育目標の「よく考える子」「思いやりのある子」「たくましい子」の育成を目指していく。

○本年度は、主に国語科の授業を通して子どもたち一人一人の読解力、表現力を高めることを目標に、主体的、対話的な深い学びの実現を目指し、校内研究を進めてきた。今後は「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を総合的に組み合わせながら、さらに子どもたちの言語能力の向上を図っていきたい。

2. 平成30年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
文章力、読解力、計算力、数学的な考え方の育成	80%以上	国語 75.5%、算数 73.4%、全体 74.5%の通過率。	S-P表分析、学力ポートフォリオをもとに、一人一人の児童の課題を把握し指導した結果、9月の再テストでは国語 81.3%、算数 75.3%。	●

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
別紙「平成30年度学力向上アクションプラン」評価シート参照					

重点的な取組事項－2 小中連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学力向上に直結した授業力向上を根幹にした連携	学校評価項目、分かりやすく丁寧な授業を行い学力も身に付いている95%以上	児童、地域、保護者による評価では、わかりやすく丁寧な授業ができているとの評価が90%に達した。	基礎・基本の定着を目指し、小中での指導方法や内容の継続性についての研究や実践を進めていく。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
重点教科による校内研究を中心とした小中連携	全学級担任と専科による校内研究授業の公開を全学級（事前授業も含む）で実施。	すべての児童の言語能力向上を目標に、国語科の文章の読解を中心とした研究授業を各学年で公開。連携校だけでなく、幼保にも参観を呼びかける。	全学級で研究授業を実施し、児童の言語能力(特に読解力)を高めるための指導法について研究を深めることができた。	国語科の研究を他教科の指導にどう生かしていくか今後の課題である。	○
各教員の専門教科による公開研究授業の小中連携	連携校教員の専門教科ごとの研究部会による指導案検討会と研究授業を各校で実施。	校務支援システム等を活用し、事前に指導案や資料を配信し協議をより活性化させる。	各教科ごとに小中の教員が学習指導案の事前検討を行う中で、より専門的な意見交換を行うことができた。	教科によって参加する教員の数に差があり、話し合いが十分深まらなかった部分もある。	○
区小研を通じた小中連携	小中連携の日の5、1月に小学校公開授業参観・協議。10月に中学校公開授業参観・協議に参加する	小中連携の日における公開研究授業・協議会に全教員が参加、連携の成果と課題を共有化し、指導の連続性を強める。	各教科の指導で足立スタンダードをふまえた授業形式の統一を図り、共通の形式で学習指導案を作成することができた。	英語や算数(数学)以外でも統一した授業づくりを進めることができた。	○

重点的な取組事項－3 体力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な子供の育成	都運動能力調査で、全学年・全調査項目で都平均を上回る。筋力・持久力の向上	都運動能力調査では4学年で都平均を上回り、2学年でやや下回るという結果となった。	全校的な課題として、投力や握力の向上が指摘されたので、器械運動や投げる運動を積極的に取り入れていく。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体育科授業の改善	体育科公開授業を各学級一回以上実施、全ての児童が楽しいと思う体育授業の実現	恵まれた自然環境を活用し、運動量が確保できる授業実践、器械運動を中心とした体力づくりの運動の強化。	各種運動領域の特性を把握した上で、必要に応じ近隣校の校庭を利用し、意図的・計画的に児童の筋力や持久力向上のための取組を実施した。	児童一人一人が自身の体や体力向上に感心をもち、進んで運動しようとする姿勢がもてるよう指導内容を工夫・改善した。	○
年間を通した体力向上の取組	運動朝会10回、様々な運動を行う機会の提供。	休み時間を活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。	一年間に運動朝会10回、体力テスト・水泳・持久走・短縄・長縄等の各種運動月間5回、区連合運動会に参加し総合2位となった。	運動場所の確保や運動内容の工夫を職員の創意で解決し、朝練習、休み時間、体育授業を通して児童の運動量を確保することができた。	○
自己の運動記録に挑戦する意欲の高揚	全児童が年間を通した個人の体力カード活用、行事や運動月間ごとに学校記録の更新を行う。	体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭とも連携した取組の推進。	各種運動の最高記録を提示し、児童の意欲向上を図ることができた。体力カードを用い、個人記録を蓄積している。	個人の体力カードの活用を通して、児童一人一人がめあてをもって運動に取り組む意欲を高めることができた。	○

3. 学校活動全般について

本年度も「知・徳・体」の調和がとれた児童の育成を目指して教育活動を推進した。全児童の読解力とともに、表現力の向上を目標に国語科の授業改善を通じた校内研究を進めた結果、児童一人一人の志向が豊かになり、お互いの意見を傾聴し良さを認め合うという場面が多くみられるようになってきた。区学力調査においては、国語では語彙や読解力の不足、算数の図形や表の理解、文章問題においてつまずきの見られる児童が目立ったので、読解力向上に特化した問題集の活用をはじめ、基礎的な計算・文章問題の練習を繰り返すとともに、一人一人の児童の課題を明らかにし、その解消に重点を置いた指導を心がけた。その結果、1月に行った区学力調査復習において、すべての学年で言語についての知識・理解・技能について向上が見られるとともに、算数では数学的な考え方の問題で顕著な伸びが見られた。全教員に足立スタンダードに基づく授業の基本を確実に身に付けさせ、丁寧に実践させることが、児童のさらなる学力や体力の向上を目指す上で必須となる。次年度は、すべての児童の幸せのために、家庭・地域との連携をより強固にしながら、信頼される学校づくりを念頭に、教職員一丸となって、児童の基礎学力の定着と一層の伸長のために尽力していきたい。

「平成30年度 学力向上アクションプラン」評価シート

足立区立桜花小学校 学校長 芳賀 幸広

		アクションプラン	達成目標(=数値) 〈いつまで・何を・どの程度〉	具体的な取り組み内容 〈誰が、何を、どのように〉	実施結果	コメント・課題	達成度 (◎○△●)
1	継続	朝学習 (スキルアップタイム)	毎回のミニテストで全員が正答率80%以上の結果を出す。	【指導者体制】担任 【取り組みのねらい・目的】学習内容の復習・確認を行う。 【使用教材】読解、漢字、計算等のプリント学習 ○付けは各児童、担任等が行い、当日中に返却	達成率 90%	計画の履行84% 内容は80%達成は90% 学習終了直後の短期的な習得は改善している。 学期末のまとめ等で確認すると下降が見られ、長期的な定着に課題がある。	◎
2	継続	放課後補習教室	1月までに実施する定着度確認テストで目標値を通過する対象児童100%	【指導者体制】担任+専科サポートメンバー4名 【取り組みのねらい・目的】つまづきをさかのぼり、演習を中心に個別もしくは少人数指導。進度は各個人で異なるが、復習問題は、期間内に終了するように、1日に進める目安は伝える。 【使用教材】次へのステップ、ベーシックドリル	達成率 86%	計画の履行74% 内容達成は86% 学校全体の区学力調査の通過率上昇を考えた場合、下位層を通過させる必要がある。 補習時には目標を達成できるが、時間の経過と共に、学習効果が薄れることが課題である。	○

3	継続	サマースクール	夏休み終了後の確認テストで全員の正答率の10%アップ	<p>【指導者体制】 管理職1名+担任+専科サポートメンバー4名</p> <p>【取り組みのねらい・目的】 過去学年にさかのぼったつまずきを学力調査結果等で確認し、解けなかった問題の解き直しや週の授業内容で理解が完全でない内容の補充問題を行う。 また、テーマごとに学年を越え補習をする時間も設定し、苦手意識の早期解消を狙う。専科はその補助を行う。</p> <p>【使用教材】区学力調査補充問題・プリント教材</p>	達成率 70%	<p>計画の履行70%（参加率が悪い） 全て参加者の正答率の10%アップは100%</p> <p>以上の結果から、参加率が達成率と相関関係があと判断し、出席を促す。</p>	○
4	継続	家庭学習週間	宿題提出率 90%	<p>【取り組みのねらい・目的】 家庭学習強化月間とし、宿題の提出率を各教科で確認する。 提出できない児童に対しては、その日のうちに放課後指導等で課題を終了させてから下校させる。</p>	達成率 100%	<p>宿題の提出率は97%</p> <p>次年度は、宿題以外の家庭学習の習慣をつける取り組みを追加する。 (学習に対して自分自身で取り組めるよう習慣化を目標とする。)</p>	◎
5	継続	読解力向上問題への取り組み	上位層児童5% 中位層児童7% 下位層児童10%の向上	<p>【取り組みのねらい・目的】 読解力向上のためドリル学習を実施し、その成果を日常のワークテストで確認する。(教材変更)</p>	達成率 上90% 中80% 下50%	<p>上位層児童5%の達成…90% 中位層児童7%の達成…80% 下位層児童10%の達成…50% 下位層児童の文章の読み取りに課題が見られる。自分自身で丁寧に文章を読む態度や技能を身につける必要がある。</p>	○
6	継続	かけ算九九	100%の習得	<p>【取り組みのねらい・目的】 かけ算九九の全員習得をめざし、全児童確認テストを実施後、未習得児童は個別にプリント学習を行う。確認テストにて確認する。</p>	達成率 84% 該当児童 9/56人 未達成	<p>不登校児童の9名が補習に参加していない。 参加者は全員、九九ができるまで取り組ませるが、4年生1名、6年生2名は、未達成。 (学習障害の可能性あり)</p>	△

7	新規	読解力向上への取り組み	上位層児童 5% 中位層児童 7% 下位層児童 10% の向上	【取り組みのねらい・目的】 校内研究と連携し、読解力向上のため授業スタイルを変更し実施する。その成果を日常のワークテストで確認する。	達成率 上 90% 中 80% 下 50%	上位層児童 5%の達成…90% 中位層児童 7%の達成…80% 下位層児童 10%の達成…50% 下位層児童の文章の読み取りに課題が見られる。 ワークテストで確認するため 5 の結果と同様になる。授業改善は進んでいる。	○
---	----	-------------	--	---	--------------------------------	---	---